

平成 29 年 10 月 3 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達 教授

申 請 者 名 鈴木 庸裕

助成事業の区分 (該当するものを○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・ <u>学会等運営</u> 学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	2017 年度日本学校ソーシャルワーク学会東北地区学習会
事業実施期間	平成 29 年 9 月 30 日 ～ 平成 29 年 9 月 30 日
成果の概要	<p>本学会の学習会は、震災から 6 年を振り返るという点で、いじめや不登校、生活の困窮、子どもの自死など、まだまだ課題が残る今日、被災地で活動してきたスクールソーシャルワーカーの支援活動について検証する機会であった。</p> <p>福島県教育委員会や一般社団法人福島県社会福祉士会、福島県学校心理士会の後援・共催をもとに、98 名の参加があった(幼保、小中高、特別支援の学校関係者、県内外の教育委員会指導主事、スクールソーシャルワーカー、家庭裁判所や医療機関、児童福祉機関、児童デイなどの福祉職や心理職、院生)。</p> <p>この研修では、「学校と福祉をめぐる多職種協働の今日的課題」をテーマとし、基調講演として、「学校と福祉をめぐる多職種協働の今日的課題」(野田正人氏(立命館大学・教授)、第 1 分科会「いじめ・重大事態の調査活動における司法と福祉の協働」(報告者・山本操里氏、宮城県・SSW)、第 2 分科会「高校・就労・青年期問題」(報告者・土屋佳子氏、福島県・SSW・SV 他)、第 3 分科会「発達特性を持つ子どもとその家族支援」(報告者・池田紀子氏、福島県・SSW) それぞれに、今日的にニーズの高い研修テーマであり、震災から 6 年、学校教育や地域において、学校関係者と社会福祉、医療、保健、司法(弁護士)など、それぞれの多職種協働をさらに進めていくことが浮き彫りになり、熱心な議論が各分科会でも繰り広げられた。</p>

